



# Y's men 70th International Convention



懐かしい友との出会い

多胡 葉子

ノルウェーの大都市の一つであるスタバングルで開催された第70回目の国際大会に宝塚ワイズから福田宏子メン、青柳メン、メネット、多胡メン、メネットの5人が参加した。36カ国から約750人(ユースも含む)。日本からはノルウェー、デンマークに次ぐ115人の参加であった。

私は今回の国際大会で以下の3人の方々に会いたいと願って参加した。

1. 我がクラブのIBC—Giveクラブのメンバーである Jorgen Ravn さん。
2. 1998年に国際大会が京都で開催された時に宝塚がホストとして関わったノルウェーのメンバーの Mr.&Mrs. Endre Hæge Aasmundtveit 夫婦。
3. 2004年にデンマーク Giveクラブの25周年に参加した時にコペンハーゲンでホームステイをさせて下さった Mr. & Mrs. Villy & Ingerlise 夫婦。

①の Giveクラブの Ravn さんは国際大会参加の常連さん。殆ど二年毎にお目にかかりとても親しく交流が出来る。今回も彼との再会は開会式が始まった途端に会うことが出来た。大会中休み時間や食事のときなどに親しくお互いの近況やクラブメンバーの近況、クラブの様子などを語りあいながら交流のときを楽しんだ。Giveクラブも女性のメンが6人になったとのこと。



②と③の方々との連絡は殆どなかったので大会前に手紙とメールで連絡を入れた。ノルウェーの Hæge からはご主人の Endre が2001年に亡くなったこと。そして彼女自身丁度背中 of 手術待ちのために今回の大会には出席できないとの返事が返って来た。が私が連絡したことをとても喜ばれ、彼女と同じクラブのメンバーで大会に出席する方を紹介された。

③の Villy 夫婦へのメールは届かず事前連絡はできなかった。

しかしながらとても不思議な巡り合わせ。ノルウェーの Hæge の所



属するクラブのメンバーで彼女の親しい友人でもある夫婦と最初の IP 夕食会の席が福田メンと同じテーブル。すぐに Hæge の様子を聞くことが出来た。しかし彼女は Hæge からの紹介の方ではなかった。彼女が紹介して下さったかたは最後の日のパーティの時に Hæge からメッセージをたのまれていて私を探して挨拶に来て下さった。また、コペンハーゲンの Villy 夫婦とも最初のバナーセレモニーの時に私達のすぐ前の席に座っておられ何年かぶりの再会を喜びあった。600人以上の参加者の中でこのように願っていた再会が出来たことは本当に不思議な神様のお導きだったと感謝。

国際大会への参加の大きな喜びでありワイズメンバーとのよい交流が出来る。Hæge Aasmundtveit はアイコン作家としてノルウェーではとても有名な方。その作品 The Holy Picture-A Journey into the Heart of God -は中国語と英語に翻訳され香港でミッションプロジェクトとして使われており、国内ではノルウェー王室の75

年の記念日にルーテル教会からの贈り物として選ばれたとのこと。その素晴らしいアイコンの本が先日彼女から宝塚ワイズへのプレゼントとして私の所に送られてきましたことを報告します。

第70回ノルウェー(スタバンガー)国際大会に出席して

福田 宏子

“The future is now”をモットーに掲げた国際大会の2日目、今までの大会では経験しなかったワイズ会員宅での夕食会のお招きに授かった。5~6名が1グループとなり、ワイズの会員宅に招待され、一般のお宅拝見、ノルウェーの家庭料理、様々

な国のワイズメン達と膝を交えての交流の機会が与えられた。私のグループにはノルウェー



ーのご夫妻(教会関係の仕事に従事)、台湾の Liuさんと甥の Scott, カナダに移住され、現在 UBC の大学生でとてもステキな英語を話す好青年と私であった。招待下さったのは Helge Storhaug ご夫妻、奥さまは独身時代日本を仕事で訪問されたとのこと。ご夫妻のお宅は閑静な住宅街にあり、玄関わきのガレージには短い夏を楽しめる、カヤックやカヌーが置かれ、赤い実のクランベリーが茂り、色とりどりの草花が咲き乱れる緑の庭が広がっていた。サラダ、鮭のムニエルに温野菜の付け合せをごちそうになりながら、様々な話に花が咲いた。長女の Ana さんがお産のために来宅されており、生後3週間目の可愛い坊やをあやしておられた。ラズベリーが山ほどかかったアイスクリーム、

クッキーに飲み物をテラスで頂ながら、私の課題である「第二言語」についての質問にも快く答えてくださった。 Scotto と同様に「どうしてノールウェーの人たちは英語が上手なのか」という私の疑問も解けた思いがした。太陽の日が欠けてくると、少しでも太陽に当たりたくて移動する彼らの姿を目のあたりにして、日本との違いを再認識する時でもあった。



#### おみやげ作りへの感謝と報告

宝塚クラブのメネットを中心に用意して下さいだった小物入れのおみやげと三品コメットの用意して下さいだったチョーカーネックレスとウチワのおみやげは懐かしい友やホームビジット先でのお土産として大いに活用させていただきました。Giveのメンバーから早速にメールでお礼状がはいています。皆様に喜ばれたことをいたことを報告し、お土産作りへのご協力を感謝いたします。